中部電力

開発中

共同研究
- 株式会社プロノハーツ

３次元ホログラムによる疑似対面型コミュニケーション

MRによる三次元映像遠隔コミュニケーション

背景・目的

- これまで長年にわたり映像出力技術の主流だったディスプレイ型映像技術に代わり。次世代型映像技術であるMR（Mixed Reality）技術が注目され始めてきています。
- 同時に、テレワークやWEB会議が増加する一方で、対面式に比べ、親密感の乏しさや空間的な距離感を感じてしまうといった課題があります。
- そこで、3次元ホログラムによる新たな遠隔コミュニケーションシステムを実現しました。

MR（Mixed Reality）：複合現実
現実空間と仮想空間を混合し、現実のモノと仮想的なモノがリアルタイムで影響しあう新たな空間を構築する技術。

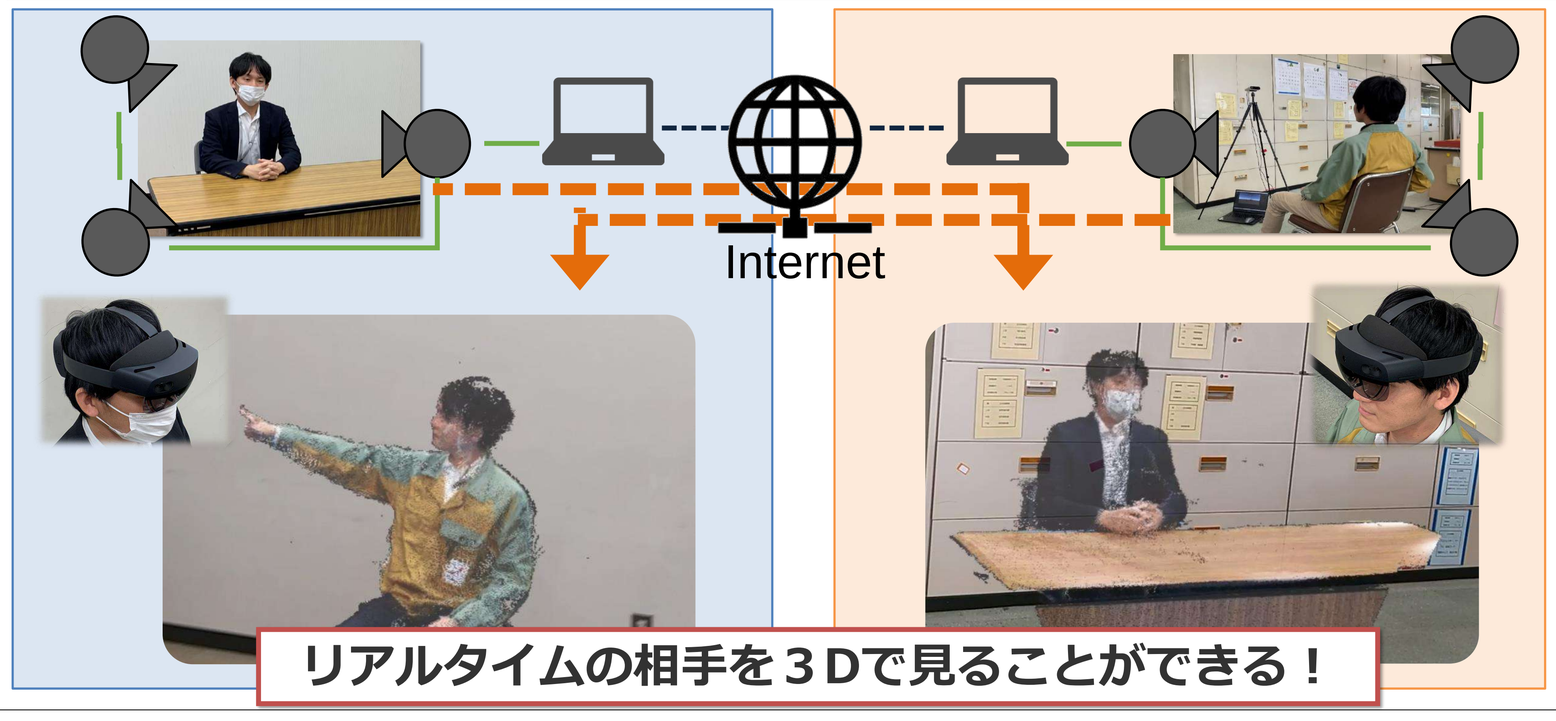
Microsoft Hololens2

特長

- 360度どの角度から見ることができ、全身を映すことが可能
- リアルタイムかつ双方向に映像を映すことが可能
- 人だけでなく、物や空間も共有することが可能
- 3次元映像の保存や再生も可能

用途

- 実際に対面しているかのようなWeb会議の実現
- リモートによる実技研修や体験型教育の実現
- 実作業現場を共有できるリモート監視や遠隔作業支援の実現



開発者のひとこと

新型コロナウイルスの蔓延に伴い、気軽に人と対面しにくくなり、何か物足りなさのようなものを感じていました。
それなら、リモートでも対面と同じようにできれば良いのではという想いで研究を開始しました。
今後も、人と人とを繋ぐようなテーマについて研究していきたいと考えています。